

令和2年度
京都市美術館協議会
議 案 書



撮影：来田猛

令和2年11月25日
京都市京セラ美術館（京都市美術館）

目 次

1 令和元年度 事業報告

(1) 美術館再整備事業

(2) 展覧会事業

(3) 所蔵品収集

(4) 調査研究

(5) 教育普及事業

2 令和元年度 決算

3 令和2年度 事業計画

(1) リニューアル後の美術館概要

(2) 運営に係る外部委託の状況

(3) 展覧会事業

(4) 所蔵品収集（美術品購入）

(5) 調査研究

(6) 教育普及事業

(7) ミュージアムグッズの販売等

4 令和2年度 予算

1 令和元年度事業報告

(1) 美術館再整備事業

ア 概要

京都市美術館は、昭和8年の開館以来、京都画壇の作家の作品をはじめとした京都の美術に関する重要な作品を収蔵するとともに、各時代における重要な展覧会を数多く開催するなど、日本の美術・文化振興に大きな役割を果たしてきた。

昭和46年に収蔵庫を、また昭和49年には冷房設備を設けるなど、美術館をとりまく社会状況に応じた改修を行ってきたが、近年、建物・設備両面での老朽化への対応に加えて、美術館として求められる展示環境及び来館者サービスの水準が大きく向上し、対応が必要な状況となった。

平成25年度、創建80周年を契機として、当美術館協議会への諮問・答申を踏まえて京都市美術館将来構想を策定し、京都市美術館が今後とも国内外を問わず多くの人々を魅了し、世界に誇れる美術館となるための方向性・方策を定め、再整備に着手した。

平成27年度に青木淳・西澤徹夫設計共同体により、本館の近代建築としての文化財的価値を継承しつつ、現代芸術に対応できる展示空間を新設するとともに、ショップ、カフェ等のアメニティ機能を盛り込み、より開かれた美術館を実現する基本設計を策定し、平成29年度に再整備工事に着手した。

再整備に当たり、市民の負担を軽減しながら着実に整備を進めるため、ネーミングライツ事業を導入し、趣旨に賛同いただいた京セラ株式会社と本館の通称を「京都市京セラ美術館」とするネーミングライツ契約を締結した。契約に基づき再整備費総額約111億円の半分に当たるネーミングライツ料55億円を得て再整備を推進し、令和元年度に竣工した。

イ 再整備後の施設概要（再整備前後の比較）

	再整備前	再整備後
延床面積	11,907 m ² $\left(\begin{array}{ll} \text{本館} & 9,349 \text{ m}^2 \\ \text{収蔵庫棟} & 1,790 \text{ m}^2 \\ \text{事務所棟} & 768 \text{ m}^2 \end{array} \right)$	約 19,506 m ² $\left(\begin{array}{ll} \text{本館} + \text{増築部} & \text{約 } 11,415 \text{ m}^2 \\ \text{新館} & \text{約 } 7,323 \text{ m}^2 \\ \text{旧事務所棟} & \text{約 } 768 \text{ m}^2 \end{array} \right)$ (レストラン予定)
主な機能		
展示諸室	5,039 m ²	約 5,783 m ² (+約 744 m ²)
収蔵諸室	944 m ²	約 1,575 m ² (+約 631 m ²)
カフェ、ショップ等	—	約 389 m ² (+約 389 m ²)

ウ 令和元年度以降における取組

4月	建築コンセプト，開館日等を発表
8月	オープニングイヤー展覧会ラインナップの発表
11月	しゅん工式，特別見学会
12月	開館プレイベント「セレブレイティングカラーズ」開催
3月	内覧会・当初予定の21日開館を延期
令和2年度	
5月	26日リニューアルオープン
8月	本館等が国登録有形文化財に登録
9月	京都建築賞「最優秀賞」受賞
10月	グッドデザイン賞「グッドデザイン・ベスト100」受賞

(2) 展覧会事業

ア 本館 なし

イ 別館 1件

名 称	会 期	開催日 数	入場者数
改組 新 第6回 日展 京都展	令和元年12月14日から 令和2年 1月11日まで	20	25,336
計		20	25,336

ウ 所蔵品貸出

貸出件数：10件

※リニューアル準備（コレクションルーム新設等）に向け，貸出を控えていたため例年に比べて貸出数減。

※展覧会会期が翌年度であっても令和元年度中の貸出であれば当該件数に含む。

所蔵品を貸出した主な展覧会：

- ・「太田喜二郎と藤井厚二ー日本の光を追い求めた画家と建築家」
(京都文化博物館, 目黒区美術館)
- ・「京都市美術館所蔵品展 動物パラダイス」(美術館「えき」KYOTO)
- ・「開館25周年記念展 上村松園・松篁「日本画の心」展」(松伯美術館)

エ 貸館について

貸館件数：62件（うち本館 0件）

入場人数：80,335人（うち本館 0人）

<主催団体別貸館件数および入場人数〔（ ）内は本館内数〕>

団 体 区 分	件 数	入場人数（人）
美術団体	57（ 0）	76,415（ 0）
職場・職域	1（ 0）	794（ 0）
学 校	4（ 0）	3,126（ 0）
公的機関（学校以外）	0（ 0）	0（ 0）
そ の 他	0（ 0）	0（ 0）
合 計	62（ 0）	80,335（ 0）

<展覧会別貸館件数および入場人数〔（ ）内は本館内数〕>

展 覧 会 区 分	件 数	入場人数（人）
公 募 展	5（ 0）	6,340（ 0）
会員・グループ展	57（ ）	73,995（ 0）
個展・その他	0（ 0）	0（ 0）
合 計	62（ 0）	80,335（ 0）

<展示ジャンル別貸館件数および入場人数〔（ ）内は本館内数〕>

ジ ャ ン ル	件 数	入場人数（人）
総 合	26（ 0）	30,629（ 0）
日 本 画	4（ 0）	6,813（ 0）
洋 画	6（ 0）	6,335（ 0）
水 墨 画	3（ 0）	8,711（ 0）
版 画	0（ 0）	0（ 0）
書	13（ 0）	15,831（ 0）
工 芸	4（ 0）	5,455（ 0）
写真・映像	5（ 0）	5,729（ 0）
そ の 他	1（ 0）	832（ 0）
合 計	62（ 0）	80,335（ 0）

（３）所蔵品収集

ア 美術品購入の基本方針

美術品のコレクションの充実を図り、再整備後の運営計画の検討に併せるため、協議会からの答申をもとに、平成３０年１１月に新たな作品収集の方針を策定し、以下の方針を基盤に、美術品等収集会議での意見を踏まえ、計画的に作品の購入を行っている。

- ・ 近代以降の美術において重要な位置を占める作家の作品及び資料を収集する。
- ・ 現代の美術において新たな展開を見せる作家の作品及び資料を収集する。
- ・ 近代以降の美術に有意義な関連のある国内及び海外の作家の作品及び資料を収集する。
- ・ 主要な作家については、作風の変遷を見ることができるよう、各時期の作品を収集する。
- ・ 上記の作品及び資料について、長期的な計画に従って毎年継続して収集する。

※1 明治以降から現在までの美術を意味するが、近代の美術の形成に影響を与えた江戸期の美術まで遡及するものとする。

※2 既存の部門（日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書）だけでなく、新たな分野（写真、映像など）の作品も対象とする。

なお、寄贈作品の受入れについても、上記の方針に準じて行っている。

イ 美術品等収集会議及び美術品等評価会議

美術品の収集に当たっては、その適正を期するため、美術品等収集会議及び美術品等評価会議の審議を経て、収集している。

令和元年度は、美術品等収集会議を令和元年8月20日、美術品等評価会議を8月21日に開催した。

<美術品等収集会議委員名簿>

氏 名	職 名
草薙 奈津子	平塚市美術館長
島 敦彦	金沢 21 世紀美術館長
島田 康寛	美術評論家
不動 美里	姫路市立美術館副館長
柳原 正樹	京都国立近代美術館長
山本 英男	京都国立博物館特認研究員

<美術品評価会議委員名簿>

氏 名	職 名
小倉 実子	京都国立近代美術館主任研究員
洲鎌 佐智子	京都文化博物館学芸課課長補佐
菅谷 富夫	地方独立行政法人大阪市博物館機構 大阪中之島美術館準備室室長

ウ 美術品の購入

(ア) 購入点数等

美術品購入については毎年度予算化し、所蔵品の充実を図っている。

令和元年度は購入 30 点、寄贈 50 点、所管換え 1 点により合計 81 点増加し、所蔵品点数は 3,758 点となった。(新収蔵作品は、別紙 1 参照)

＜平成 30 年度末及び令和元年度末の所蔵品の種類別点数＞

	平成 30 年度		令和元年度		増加点数 (点)
	所蔵品数 (点)	比率 (%)	所蔵品数 (点)	比率 (%)	
日本画	1,217	33.1	1,234	32.8	17
洋画	777	21.1	783	20.8	6
版画	584	15.9	595	15.8	11
彫刻	154	4.2	164	4.4	10
工芸	854	23.2	891	23.7	37
書	91	2.5	91	2.4	0
合計	3,677		3,758		81
備考	購入	751 点 (20.4%)	購入	781 点 (20.8%)	購入 30 点 寄贈 50 点 所管換え 1 点
	寄贈	2,897 点 (78.8%)	寄贈	2,947 点 (78.4%)	
	所管換え等	29 点 (0.8%)	所管換え等	30 点 (0.8%)	

(イ) 美術品購入費

令和元年度の美術品購入費は、計 25,804 千円であった。

また、京都の美術史上貴重な美術品を購入できるよう、別途、美術館基金として平成 5 年度から美術品購入積立を行ってきた。(平成 12 年度以降、市の財政状況から積立を一時休止中。)

美術館基金の令和元年度末現在高は 436,185 千円(うち、美術品購入積立 0 千円)。

エ 所蔵品修復

令和元年度は、菊池隆志《少憩》(日本画)のしみ抜き、表具替えを行っ

たほか、計 10 件、修復費 3, 117, 001 円の修復作業を行った。(このうち、京都市美術館友の会支援事業による修復は、計 1 件、修復費 499, 675 円)。

オ 《絵になる最初》の国の重要文化財指定と修理について

(ア) 指定対象作品

《絵になる最初》竹内栖鳳筆 大正 2 年 絹本着色 一幅
附 画稿 一幅

(イ) 指定年月日

平成 28 年 8 月 17 日

(ウ) 指定理由

近代京都画壇を代表する竹内栖鳳は、円山四条派の伝統を踏まえ、いち早く渡欧して西洋絵画を研究、新画風を打ち立てて活躍した。日本で裸体モデルを使ってデッサン訓練することを始めた最初期の日本画家である。

《絵になる最初》はモデルが着衣を脱ぐのを恥らう様子に画想を得たもの。新しい画題に斬新な意匠と情緒表現を両立させた画期性、いわゆる下絵とともに伝わっていることなどが高く評価された。

(エ) 指定披露展示

平成 28 年度のコレクション展で指定披露展示を行った。

(オ) 国の補助を利用した修理

平成 30 年度、令和元年度の 2 箇年で、指定対象の二幅の剥落止め、表具替えなどの修理を行った。

・平成 30 年度 2, 448, 993 円 (うち国庫補助 1, 224, 000 円)

・令和元年度 3, 373, 428 円 (うち国庫補助 1, 686, 000 円)

(4) 調査研究

これまで、京都の美術界や京都の工芸に関する総合研究及び近代京都における展覧会史や・近代京都の染織作家の基礎研究などの個別研究を継続的に行ってきたが、リニューアルオープンへ向けての準備業務を行うため、再開館まではこれらを一時的に休止し、①常設展の新設のための所蔵作家・作品、②新たな収集集方針に基づいた収集(購入、寄贈)のための候補作家・作品の調査、に加えて、③開館記念展覧会の開催のための出品作家・作品の調査研究を集中的に行っている。

(5) 教育普及事業

ア ギャラリートーク

改組新第 6 回日展京都展の開催に合わせ 22 回実施。参加人数は延べ

1, 135名。

イ ワークショップ

改組新第6回日展京都展の開催に合わせ、日展出品者等による作品制作活動などを6回実施。参加人数は延べ119名。

リニューアルオープン関係では、オープニングコンサート中に投影するライトアップのデザインを作成するワークショップを2月15日（土）開催した。（ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、オープニングコンサートは中止となった。）

ウ 美術育成事業

（ア）京都市後援名義使用許可

美術団体等の展覧会の開催に際し、本市後援名義の使用を許可している。
令和元年度は55件。

（イ）市長賞の交付

展覧会に市長賞を交付。令和元年度は34件。

エ 普及活動

（ア）美術館ニュース

年1回発行（令和元年度 215号）

（イ）デジタル情報発信

美術館情報への市民の多様なニーズに応えるため、平成14年4月から、「京都市美術館ウェブサイト」を作成し、情報発信を行っている。

サイト運用後期間が経過し、デザインが古くなったこと等から、リニューアルオープンに向けてデザインの刷新、CMSの導入、多言語（英語・中国語繁体字・中国語簡体字・韓国語）対応等を行い、平成31年4月にティザーサイトを立ち上げ、9月末から本サイトを公開した。

このほか、公式SNSとして、Instagram, Facebook, Youtube のアカウントを立ち上げ、情報発信を行っている。

＜ウェブサイトのアクセス数／ページビュー数の推移＞

年度	アクセス件数	年度	ページビュー数
平成26年度	1,046,423	令和元年度	1,133,644
平成27年度	5,784,798		
平成28年度	1,072,263		
平成29年度	562,590		
平成30年度	156,184		

(ウ) 広報媒体等掲載件数

日本語

全体	新聞	Web	雑誌	TV・ラジオ
1,726 件 (1,296 件)	369 件 (216 件)	1,073 件 (862 件)	260 件 (195 件)	24 件 (23 件)

英語

全体	新聞	Web	雑誌	SNS
530 件	1 件	524 件	2 件	3 件

上記以外にも、プレスツアーや取材等の問合せ件数が 89 件あった。

(エ) デジタルアーカイブ

平成 13 年度に京都デジタルアーカイブ研究センターが実施する「平成 13 年度京都市美術館コンテンツのデジタル化事業」により、一部作品のデジタルアーカイブ化を行い、所蔵品を高精細かつ高品位にデジタル化した。

この事業により、今後、京都市が保有する美術品のデジタルアーカイブ化を促進し、次世代への保存継承を図るとともに、デジタルデータを活用して研究者・市民等へ広く文化資産として公開していく基礎をつくった。

デジタル化したデータは、雑誌、書籍への掲載や作品貸出しの際の活用に加え、美術館ウェブサイトの「当館の名品」コーナーで公開している。

<デジタル化作品数>

年度		平成 30 年度	令和元年度	増加数
内 訳	日本画	1,134	1,271	137
	洋 画	761	820	59
	版 画	282	526	244
	彫 刻	141	151	10
	工 芸	613	736	123
	書	72	74	2
計		3,003	3,578	575

※ デジタル化作品のうち、791 件は、著作権の保護期間（作者死後 50 年、平成 30 年 12 月 30 日からは死後 70 年）が切れている。

オ 友の会

(ア) 概要

京都市美術館友の会（会長：白波瀬 誠）は、昭和 32 年 11 月に発足し

て以降、魅力ある友の会を目指して、関連施設との連携を強化し、会員特典の充実を図ってきた。

再整備事業に伴う本館閉館のため会員数は減少し、令和2年3月末での会員数は1,594名であった。

リニューアルオープンに合わせ、名称を「京都市京セラ美術館メンバーシップ」に改め、会員がこれまで以上に美術館を身近に感じ、楽しめるよう、友の会の精神を引き継ぎ、制度の見直しを行った。（「京都市京セラ美術館メンバーシップ」の詳細は、令和2年度事業計画参照）

（イ）再整備期間中の友の会の活動実績

本館における観覧ができない代わりに以下のサービス、イベント等を実施した。

- ・ 共催展や別館等で実施される美術団体の展覧会の無料・割引観覧
- ・ 京都ミュージアムズ・フォーの加盟館や細見美術館における会員の観覧料の優待
- ・ 近隣府県にある他の美術館の見学ツアー
- ・ 市内の文化施設めぐりツアー
- ・ 館長による友の会会員限定の講演会の回数増
- ・ 図録の割引販売 など

2 令和元年度決算

《総計》

(歳入)

(単位：円)

	予算額(A)	決算額(B)	(B) - (A)
美術館運営費	583,881,000	517,568,230	△ 66,312,770
基金積立金	2,292,220,000	2,260,224,898	△ 31,995,102
文化市民施設営繕費	7,002,200,000	6,958,364,229	△ 43,835,771

(歳出)

(単位：円)

	予算額(A)	決算額(B)	(B) - (A)
美術館運営費	695,977,000	639,227,752	△ 56,749,248
基金積立金	2,292,220,000	2,260,224,898	△ 31,995,102
文化市民施設営繕費	7,288,061,000	7,174,109,402	△ 113,951,598

《美術館運営費》

(歳入)

(単位：円)

区 分	予算額(A)	決算額(B)	(B) - (A)	備 考
美術館使用料	49,981,000	16,111,966	△ 33,869,034	・会場使用料 ・駐車場使用料等 ※新型コロナウイルスの影響により、本館使用料が不収入になったことによる減
国庫補助金	102,000,000	107,684,888	5,684,888	・重要文化財修理補助金 ・文化芸術創造拠点形成事業補助金
基金繰入金	390,000,000	369,640,206	△ 20,359,794	・基金からの繰入金（取崩し）
共催展事業配当収入	29,765,000	16,639,583	△ 13,125,417	・日展京都展配当金
図録等売払収入	0	251,565	251,565	・オリジナルグッズ売払い収入
光熱水費使用料	1,020,000	6,897,904	5,877,904	・再整備工事等
その他	11,115,000	342,118	△ 10,772,882	・基金運用収入 ・所蔵品貸出料等 ※協賛金等が不収入になったことによる減
合 計	583,881,000	517,568,230	△ 66,312,770	

(歳出)

(単位：円)

区 分	予算額(A)	決算額(B)	(A) - (B)	備 考
美術館運営	119,290,000	108,935,587	10,354,413	・建物管理経費 (設備保守, 清掃, 警備, 光熱水費等)
日展	58,837,000	58,837,000	0	
所蔵品修理	2,619,000	2,614,626	4,374	・作品修復費
調査研究・教育普及	2,231,000	412,915	1,818,085	・普及啓発印刷物発行等
新・京都市美術館 オープニング プロジェクト	513,000,000	468,427,624	44,572,376	・開館記念展, 式典 ※開館記念式典の中止に伴う残
合 計	695,977,000	639,227,752	56,749,248	

《基金積立金》

(歳入)

(単位：円)

区 分	予算額(A)	決算額(B)	(B) - (A)	備 考
特許権等運用収入	2,260,000,000	2,260,000,000	0	・ネーミングライツ収入
基金運用収入	2,220,000	224,898	△ 1,995,102	・基金の運用収益金 ※当初想定利率より利率が下がり, 運用利子収入が少なくなったことによる減
寄付金	30,000,000	0	△ 30,000,000	※寄付がなかったことによる減
合 計	2,292,220,000	2,260,224,898	△ 31,995,102	

(歳出)

(単位：円)

区 分	予算額(A)	決算額(B)	(A) - (B)	備 考
美術館基金積立金	2,292,220,000	2,260,224,898	31,995,102	※寄付がなかったため

《文化市民施設営繕費》

(歳入)

(単位：円)

区 分	予算額(A)	決算額(B)	(B) - (A)	備 考
国庫補助金	149,300,000	332,000,000	182,700,000	社会資本整備総合交付金
基金繰入金	1,999,900,000	2,019,364,229	19,464,229	
市債	4,853,000,000	4,607,000,000	△ 246,000,000	
合 計	7,002,200,000	6,958,364,229	△ 43,835,771	

(歳出)

(単位：円)

区 分	予算額(A)	決算額(B)	(A) - (B)	備 考
館内修繕	1,161,000	242,220	918,780	・ 設備修繕費
京都市美術館付属等	45,000,000	14,263,000	30,737,000	・ 付属棟耐震改修委託費 ※30,737,000千円全額を翌年度繰越。不用額は0円
京都市美術館再整備事業	6,332,900,000	6,313,921,029	18,978,971	・ 工事費 ※付属等整備14,063千円を翌年度繰越。不用額は4,915,971円
新・京都市美術館 オープニング プロジェクト	909,000,000	845,683,153	63,316,847	
合 計	7,288,061,000	7,174,109,402	113,951,598	

3 令和2年度事業計画

(1) リニューアル後の美術館について

ア 概要

- ・通 称：京都市京セラ美術館
- ・館 長：青木淳
- ・開館時間：午前10時から午後6時まで（展示室への入場は閉館の30分前まで）
- ・休 館 日：月曜日（祝日の場合は開館）、年末年始

イ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の開館予定日（令和2年3月21日）から約2箇月後の5月26日に開館となった。

開館時は全市的な対策として京都府民のみ来館を受け付けていたが、現在は以下の感染症対策を徹底して運営し、京都府外からの来館も受け付けている。

・事前予約制

展示室への入場者数のコントロール及び万一来館に備えて連絡先を把握するため。美術館ウェブサイト及び予約専用電話で受け付けている。予約枠に空きがある場合は当日の予約受付や入場を実施。

・入館時の体温チェック

入館時にはサーモグラフィーによる体温計測を実施。体温が高い場合には非接触型体温計による再計測を行い、37.5度以上ある場合には入館をお断りしている。

・来館時マスク着用をお願い

・風邪症状や倦怠感がある場合の来館自粛をお願い

・「京都市新型コロナあんしん追跡サービス」への登録をお願い

・スタッフの検温実施、マスク着用

・手すりやコインロッカー等の随時消毒を実施

(2) 運営に係る外部委託の状況

事業企画や運営サービス等について以下のとおり委託している。なお、展覧会企画・誘致や展示デザイン等については、展覧会ごとに当館学芸員と業務分担をして実施している。

業 務 名	業 務 内 容	委 託 先
事業企画推進業務	事業企画業務（展覧会企画・誘致等）、企画推進業務（展示デザイン等の支援、メンバーシップ・スペースレンタルの営業支援）等	(株) 長谷ビル

運営サービス業務	本館及び別館における，来館者及び利用者への総合サービスと館内の円滑なサービス運営を担うための総合案内・クローク業務，出札（チケットカウンター）・改札業務，展示監視等サービス業務全般	サントリーパブリシティーサービス（株）
施設マネジメント業務	展示・イベント等，施設使用にかかる管理及び運営支援業務	（株）ブランコ
清掃業務	本館及び別館における日常の清掃業務	日本管財（株）
建築設備等保守管理業務	本館及び別館における日常の建築設備等保守管理業務	日本管財（株）
警備業務	本館及び別館における日常の警備業務	セコム（株）
庭園整備業務	生垣刈込，除草，芝刈り，選定その他樹木管理業務	（株）川勝造園，植彌加藤造園（株），樋口造園（株）

<参考>

業 務	運営事業者
カフェの運営	（株）W A T
ミュージアムショップの運営	C C Cアートラボ（株）
駐車場の運営・管理	大和ハウスパーキング（株）

（３）展覧会事業

ア 本館

展覧会名	当初予定	変更後
京都の美術 250年の夢		
プロローグ 最初的一步	3月21日 — 4月5日	6月2日 — 9月6日
第1部 江戸から明治へ	4月18日 — 6月14日	第1部～第3部総集編として再編成
第2部 明治から昭和へ	7月11日 — 9月6日	
第3部 戦後から現代へ	10月3日 — 12月6日	
京（みやこ）の国宝 — 守り伝える日本のたから —	4月28日 — 6月21日	開幕中止
コレクションルーム（京都市美術館所蔵品展示）		

春期	3月21日	—	6月21日	5月26日—6月21日
夏期	6月25日	—	9月22日	変更なし
秋期	9月26日	—	11月29日	
冬期	12月3日	—	令和3年 3月14日	
改組新第7回日展京都展	12月19日	—	令和3年 1月15日	変更なし
ザ・トライアングル				
鬼頭健吾： Full Lightness	5月26日	—	9月6日	
木村翔馬：水中スペック	9月19日	—	11月29日	

イ 新館

展覧会名	当初予定			変更後
杉本博司 瑠璃の浄土	3月21日	—	6月14日	5月26日—10月4日
THE ドラえもん展 KYOTO 2020	7月4日	—	8月30日	延期（令和3年夏）
アンディ・ウォーホル・ キョウト／ ANDY WARHOL KYOTO	9月19日	—	令和3年 1月3日	次年度以降延期調整中
KTOTO STEAM 2020				10月31日—12月6日
平成美術：うたかたと瓦礫 （デブリ）1989-2019	令和3年 1月23日	—	令和3年 4月11日	変更なし

ウ 貸館

美術団体の、職場・職域、大学・高校・研究所が主催する展覧会、生徒・児童展などに対する会場提供を行う。

（４）所蔵品収集（美術品購入）

前年に引き続き、美術品収集方針に基づき、計画的な作品の購入と寄贈作品の受入を行う。

（５）調査研究

美術に関する学術的調査研究をするほか、京都在住作家の活動について恒常的な

調査を行う。

(6) 教育普及事業

ア ギャラリートーク等

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から頻回なイベント実施は困難な状況にあるが、人数制限や事前予約制を設け、可能な範囲でギャラリートーク等を実施する。

イ 美術育成事業

前年に引き続き、美術団体等の展覧会の開催に際し、本市後援名義の許可や市長賞の交付を実施する。

ウ 普及活動

(ア) 美術館ニュース

前年に引き続き、年1回程度の発行を予定。

(イ) デジタル及び広報媒体等での情報発信

前年に引き続き、美術館ウェブサイトや公式SNSを通じて、迅速な情報発信を行うとともに、新聞、雑誌、TV・ラジオ等においても効果的な媒体を検討し、活用する。

(ウ) デジタルアーカイブ

前年に引き続き、所蔵作品のデジタルアーカイブ化を進め、次世代への保存継承を図るとともに、デジタルデータを活用して研究者・市民等へ広く文化資産として公開していく基礎作りを進める。

エ 京都市京セラ美術館メンバーシップ

美術館のリニューアルオープンに合わせ、従来の「京都市美術館友の会」から名称を「京都市京セラ美術館メンバーシップ」に改め、会員がこれまで以上に美術館を身近に感じ、楽しんでもらうため、友の会の精神を引き継ぎつつ、会員区分に法人会員を設定し、個人会員についても区分の見直しを行うなど制度の見直しを行った。

会員限定の観覧の機会やイベントなど会員特典をより一層充実するとともに、会員の拡大を図りながら、収蔵作品修復の支援や美術館への備品の寄付など美術館への様々な支援の輪を広げていく予定である。なお、会員については、令和2年4月から随時募集している（新型コロナウイルス感染症の影響により、4月下旬から5月下旬までの1箇月間は募集を停止していた。）。

＜メンバーシップ制度概要＞

	リニューアル前	リニューアル後
名称	京都市美術館友の会	京都市京セラ美術館メンバーシップ
目的	美術の鑑賞，研究及び普及	美術の鑑賞，研究及び普及，美術館の支援
会員	・個人会員の種類等の見直し - 一般会員 4,500 円 → フレンド 6,300 円 - シニア会員 4,000 円 → フレンド 6,300 円 - 団体会員 4,000 円 → フレンド 6,300 円 - 学生会員 2,500 円 → フレンドU 2 5 3,600 円	

※会員区分，特典等の詳細は別紙 2 のとおり

（７）ミュージアムグッズの販売等

平成 2 6 ～ 2 8 年度は，美術普及を主目的として，絵はがきやクリアファイル等のオリジナルグッズを作成し，販売していたが，売上がグッズの作成費及び販売委託費を下回るとともに，委託販売やロイヤリティ販売の収益が伸び悩み，収支がマ

イナスとなっている状況であった。

リニューアルオープン後は、新設したミュージアムショップにおいて、絵はがきやTシャツ、バッグなどの美術館のオリジナルグッズを販売している。

4 令和2年度予算

《総計》

(歳入)

(単位：千円)

	令和2年度当初(A)	令和元年度当初(B)	(A)－(B)
美術館運営費	1,008,895	583,881	425,014
基金積立金	41,775	2,192,220	△ 2,150,445
文化市民施設営繕費	27,000	6,333,200	△ 6,306,200

(歳出)

(単位：千円)

	令和2年度当初(A)	令和元年度当初(B)	(A)－(B)
美術館運営費	1,399,382	695,977	703,405
基金積立金	41,775	2,192,220	△ 2,150,445
文化市民施設営繕費	38,431	6,334,361	△ 6,295,930

《美術館運営費》

(歳入)

(単位：千円)

区 分	令和2年度当初(A)	令和元年度当初(B)	(A)－(B)	備 考
美術館使用料	292,544	49,981	242,563	・会場使用料 ・アメニティ使用料等
国庫補助金	70,000	102,000	△ 32,000	・文化芸術創造拠点形成事業補助金
基金繰入金	145,000	390,000	△ 245,000	・基金からの繰入金（取崩し）
共催事業配当収入	498,941	29,765	469,176	
光熱水費使用料	1,300	1,020	280	
その他	1,110	11,115	△ 10,005	・基金運用収入 ・所蔵品貸出料等
合 計	1,008,895	583,881	425,014	

(歳出)

(単位：千円)

区 分	令和2年度当初(A)	令和元年度当初(B)	(A)－(B)	備 考
美術館運営	812,668	119,290	693,378	・本館本格稼働に伴う光熱水費、各種委託費等の増
展覧会開催	208,469	58,837	149,632	・日展、常設展、京都の美術250年の夢、杉本博司展、パブリックアート
所蔵品修理	0	2,619	△ 2,619	・展覧会開催経費に計上
調査研究・教育普及	24,245	2,231	22,014	・所蔵品関連経費の増
新・京都市美術館 オープニング プロジェクト	0	513,000	△ 513,000	・プレオープニングイベント開催経費等の減
京都市京セラ美術館 オープニング プロジェクト	354,000	0	354,000	・各種展覧会経費等の増
P C B 処理	0	0	0	令和3年度に処理延期
合 計	1,399,382	695,977	703,405	

※平成30年度「開館準備プロジェクト」は「新・京都市美術館オープニングプロジェクト」に事業名称移行。

《基金積立金》

(歳入)

(単位：千円)

区 分	令和２年度当初(A)	令和元年度当初(B)	(A)－(B)	備 考
特許権等運用収入	0	2,160,000	△ 2,160,000	・ネーミングライツ収入
基金運用収入	825	2,220	△ 1,395	・基金運用収益金
寄付金	20,000	30,000	△ 10,000	
その他	20,950	0	20,950	・新進作家支援プログラム、ガラディナー
合 計	41,775	2,192,220	△ 2,150,445	

(歳出)

(単位：千円)

区 分	令和２年度当初(A)	令和元年度当初(B)	(A)－(B)	備 考
美術館基金積立金	41,775	2,192,220	△ 2,150,445	・基金への積立金

《文化市民施設営繕費》

(歳入)

(単位：千円)

区 分	令和２年度当初(A)	令和元年度当初(B)	(A)－(B)	備 考
国庫補助金	0	149,300	△ 149,300	・社会資本整備総合交付金
基金繰入金	0	1,999,900	△ 1,999,900	・基金からの繰入金（取崩し）
市債	27,000	4,184,000	△ 4,157,000	
合 計	27,000	6,333,200	△ 6,306,200	

(歳出)

(単位：千円)

区 分	令和２年度当初(A)	令和元年度当初(B)	(A)－(B)	備 考
京都市美術館 館内維持管理	1,161	1,161	0	
京都市美術館 別館整備	37,270	0	37,270	・別館整備検討調査費，手摺等工事，LED化
京都市美術館 付属棟整備	0	45,000	△ 45,000	
美術館再整備事業	0	5,379,200	△ 5,379,200	
新・京都市美術館 オープニング プロジェクト	0	909,000	△ 909,000	
合 計	38,431	6,334,361	△ 6,295,930	